

- 1 日時
平成 30 年 11 月 7 日 (水) 18:30~20:15
- 2 場所
並木コミュニティハウス
- 3 参加者 54 名
(地域側)
連合自治会、地区社協、地域団体 27 名
(局・区役所、支援チーム)
区役所 5 名
地域支援チーム 22 名

<要旨>

1 あいさつ

金沢シーサイドタウン連合自治会
金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 副会長 金沢 政行

2 区長概要説明

金沢区長 國原 章弘
⇒資料に基づいて説明

3 出席者紹介 (名簿参照)

4 意見交換

(1) 議論内容の説明

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 事務局長 三輪 くみこ
⇒地区社協・区社協・富岡東地域ケアプラザ・並木地域ケアプラザの四者で、「お助け隊なみき」の立ち上げに向けて協議してきた。構想としては約 10 年が経過している。

(2) シーサイドタウン地区の高齢者をとりまく現状

金沢区社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 井上 聖貴
富岡東地域ケアプラザ // 三留 健史
並木地域ケアプラザ // 山中百合菜
金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 交流会チーム
宮川知恵子／外山ヒロ子／黒田節代／小竹肇子／岸紀子
お助け隊なみき 代表 福田 幸雄
事務局 三輪 くみこ

⇒資料に基づいて現在の状況を説明。

- ・シーサイドタウン地区は、高齢化が進んでいるものの要介護状態の方が少なく、元気な高齢者が多いのが特徴。
- ・10 年前より、助けあい活動・ボランティアセンター設置の必要性を感じていたが、なかなか実践できなかった。

当地区は、ケアプラザのエリアが並木と富岡東に分かれ、地区全体としての課題に

取り組みにくかった。生活支援コーディネーターが新設されたことにより、体制が整ってきた。区社協・両ケアプラザ・地区社協の四者で、約2年前からボランティア講座入門編を開始することにより、本格的にお助け隊を目標にすることになった。

今年5月に予定していたニーズ調査は実施できず心残りではあるが、「お助け隊なみき」立ち上げまであと1ヶ月。生まれたてのため、今後見守って頂きたい。

- ・介護保険が始まり、日常的な見守りを行っていた地域の方も手を引いてしまった。ここにきて介護保険法がまた変更になり、今まで受けられたサービスが受けられない人が出てくる可能性がある。近隣で、お互い様の助け合いの必要性が高まってきている。ちょっとした困りごとを助けてほしい人と、自分にできることを手伝いたいという人の調整ができるようになりたいという機運が高まった。
- ・男性がボランティアを始めることは勇気がある。自分にあった地域活動に是非参加してほしいと思っている。自分自身の生活サイクルや考え方を少し広げることで、新しい人間関係ができ有意義な人生の一端を過ごすことができる。
- ・ボランティアに自ら手上げる人は少ない。声掛けして広げていくことが大事。
- ・ボランティア入門講座のフォローアップも行った。他の色々なボランティア活動を紹介したり、夏の障害児者の余暇支援事業で実際にボランティア活動を体験していただいたり、地区内の福祉施設のツアーをやったりした。
入門講座を受講した人が、ボランティアから離れないように注意してきた。
- ・長く活動するためには、一緒にボランティアをする仲間の存在も重要。
- ・ゲストスピーカー①男性ボラグループの一員：「一緒にやりましょう」と声かけされ、活動を始めた。幅広く活動していると知り合いが増える。
- ・ゲストスピーカー②男性個人ボラ：サマーフェスタに出店する際の手伝いを依頼した。その後、毎年お願いできるようになった。
- ・ゲストスピーカー③女性個人ボラ：夫の介護中。介護していると、社会から取り残された気がするので、自分自身も何かの役に立つことで社会とつながってほしいと思ったという意見もあった。

(3) 意見交換

テーマ：地域を通じた助け合い「お助け隊なみき」の設立について

⇒自治会ごとの活動状況や課題などの情報を交換して、意見を聞かせて貰った。

- ・助け合いグループ「ふれあいさざなみ」は自治会の助け合い活動。あまり利用がないのは、親しい間柄になることが大事ではないかということで、お茶飲み会・短歌・散歩・食事会（3か月に1回：富岡東地域ケアプラザ利用）及びまちぐるみ健康作り等の講座を開催してきた。結成して18年が経ち自分達が高齢になったので自治会を超えた「お助け隊なみき」が立ち上がったのは嬉しい。
- ・「ホット*なぎさ」も同時期に立ち上がった。何年かはボランティアの依頼が無く、何度も止めようと思ったことがあったが、メンバー同士が仲良くなることで、困りごとを頼めるようになるのではないかと思い続けてきた。全体に年齢が上がって、メンバー自身も高齢化してきて、電灯の取り換えも危ない感じになってきた。少しずつ内容を精査している。知らない人に頼むことに抵抗がある方には、顔の見える関係作りは必要。月1回のサロンは参加者が一桁だったが、チラシを掲示することで30人

位に増えた。同街区だけではなく他街区からの参加者も増えてきたので、また違った取組に臨めるかもしれない。

➡困っているから助けて欲しいという方と、毎回同じ人に頼むことは申し訳ないという方の2パターンがあるように思う。

区社協のボランティアセンターに頼むほどではない荷物・新聞等重いものが下ろせない、ゴミ捨てが難しい等困っている人もある。

シーサイドタウン内で引越しをしている人もいる。

また、自治会の助け合い活動を知らない人もいる。

・一丁目第三住宅では、会長が毎週木曜日に集会場へ行く。DVD 映写会、おしゃべり会・折り紙教室、月によってハロウィンイベント・クリスマス会等を行っており、人を集めてコミュニケーションをとれるようにしている。グリーンクラブで草刈・電球交換等のお助け隊のほか、困っている人向けの相談会を月1回開催しているが、なかなか参加して貰えない人をどうするかは課題が残っている。

・一丁目20街区ではブラウンクラブを10年以上前に結成したが、身近な人に頼みたくない人もおり数年前に解散した。荷物の移動を行う際に、お礼についての問題が生じたことがあるので、低料金でやり取りできるのは良いかもしれない。

・三丁目3街区では、10年前にお助け隊を結成したが、メンバーの高齢化、依頼の減少、会長の引越によりグループは消滅した。この自治会は比較的元気な高齢者が多い。

➡せつかくボランティアグループ等を作っても、住民が若く、依頼がないのはよく聞く。担い手が元気なうちにグループを作っておき、新しい人を入れてグループ活動を継続するなど努力を続けることで次世代へとつないでいけたらと思っている。

・らしく並木ではNPO法人化した。まちづくり活動では、金沢スポーツセンターで毎週水曜日にコミュニティカフェを開いており、10周年になる。介護事業では介護保険事業及び居宅介護事業を行っている。

平成17年1月より、介護保険では対応が出来ない庭や部屋の掃除、大掃除、買物等も行っている。以前お礼のことで問題があったため、1時間あたりの料金を決めており、有償ボランティアのような要素もある。利用者は基本的に介護保険サービス利用の訪問介護利用者だが、介護認定をとりたくない方や、家の管理（含、草刈）や家事援助（介護保険外）のみを対応することもある。会員、スタッフ共に男性が多い。

料金は1時間1500円、以降30分単位で、見積も提示している。NPOとして介護保険事業も並列的に行うことにより、制度の狭間で埋もれている方を支援している。今後も活動を継続するためには、介護保険制度・保険外サービス・お助け隊で出来ることのすみわけが必要だと思う。

➡資格のない「お助け隊なみき」が出来ることと出来ないことのすみわけをし、自分で出来ないことはどこへつなげていけば良いのかを事前に調べておくことも必要。依頼できる先を紹介するのも活動のひとつと考えていきたい。色々なボランティア団体を駆使して、年をとっても安心して暮らして行けるよう、お手伝いをしていきたい。

・一丁目1街区では、電球交換等簡単な事だけであれば、班長が対応している。高齢ひとり暮らし世帯は30程度。老人会、お茶のみ、麻雀等自治会で出来る範囲で活動している。廃品回収時は階段下まで運ぶ等も行っている。高齢者になると粗大ごみを出

すことも大変でそれは行政に任せたい。大きなことはできない。

- ・個人的には、粗大ごみを運び出すことを行政に頼んだ時はいろいろ聞かれて大変だった。行政サービスは使い易い様にして欲しい。街区内で解決出来るもの、行政の大型ごみ回収等を利用しないと難しいもの等のすみわけが必要だと思う。

自治会単位の資源回収は奨励金が減っており、死活問題でもある。

- ・これから行おうという時に規約の改定等の必要性も出てくる。3丁目6街区では、住民による集会所の使用料を現在は300円のところ0円として使いやすくする予定だ（住民以外は1500円）。住民が集まってこない等の問題もあり、コーヒーを置いたり、塾的な活動を行ったりしていきたい。催しもの等の際の人材の掘り起こしなども重要だ。他自治会の活動を見学して、活かしていきたい。
- ・鳥浜自治会は、最近できた5つのマンションからなる自治会であり、子ども等の若年層が多い。エレベーターもあらかじめ設置されているため、困りごとの問題は上がってきていない。「お助け隊なみき」のような活動があることを知ってもらうことも大事。横の繋がりと良い。
- ・2丁目1街区では、民生委員・自治会福利厚生員・シニアクラブ等からなる「支えあいの会」生活支援サポートセンターがあるが、需要は不明。毎週水曜日、誰でもおちゃっこ広場を開催しており、4月のお花見等季節に合わせたことも行っている。エレベーターホールまでの新聞出し等も行っている。
- ・2丁目2街区ではサロン活動。10年前よりふれあいサロンを立ち上げ、ちょっとしたお手伝いを行っていた。男性スタッフ4～5人が抜けて、女性スタッフだけになったため、現在はお茶のみサロンを月2回開催（木PM）して、講座・講習・健康麻雀などを行っている。
- ・2丁目9街区では、オレンジクラブを結成して助け合い活動を行っている。会計業務が煩雑なため、無償のボランティア活動として行っている。スタッフは全員65才以上の男性スタッフで、網戸の張替え、団地内の木の剪定等の活動をしている。管理組合からの依頼が多い。知っている人に手伝ってもらいたくない方、女性スタッフが対応した方が良い方もいるがクラブがあることでとても助かっている。
➡どこに頼むのか分からない方、ボランティアを頼みたくても頼めない方、近くの人には頼みたくない方もいる。
親しくなった間柄で、出来る範囲の見守りが出来ると良い。
- ・富岡団地では、ボランティア活動について「いつでもやるよ」という人はいる。プリントや掲示板等で告知しているが、困り事の声が上がってこない。直接の声掛け、伝え方については課題で、検討が必要であると思っている。
➡手伝ってくれる方も、困っていると手を挙げてくれた方も含めて皆でここまで来ることが出来た。課題はあると思うが、今後も周知に力を入れ、できることをやっていきたい。

(4) まとめ

それぞれの自治会で、違いはあるものの賢明に取り組みをされてきている。

頼みやすさを考えるとき、

- ①メンバーの入れ替えが少ないことで高齢化が課題となってくる。

➡ボランティア講座を定期的を開催し、新しい人の参入を図る

②出来ないからといって断るのではなく、他に依頼できる先の情報を伝えていくことが大事になってくる。

➡「らしく並木」は事業所として活動しており、現場の状況を踏まえ、介護保険外についても対応している。

自治会・ケアプラザの活動等も含めた情報共有や横のつながりが大切である。

③近すぎない人間関係の重要性や、低額な利用料を設けることで、お互い様の精神を周知する。

○ちょっとした困りごとを頼みやすくすることによって、安心して過ごしやすい地区となることが今後の目標である。

(5) 「お助け隊なみき」より挨拶 代表 福田 幸雄

今回の地区推進連絡会は、「お助け隊なみき」の状況を伝える場として参加して頂けた。自分も、以前から街区を超えた広い地区を対象としたボランティア組織の必要性を感じており、昨年10月のボランティア講座入門編 第2回目に参加したことが縁で代表者を引き受けることになった。現在、役員9名、コーディネーター7名（専任・兼任）、ちょっとボランティア16名（登録数）であるが船出することになった。まだまだ人員不足のため、これからも声掛けを進めていきたいと思っている。

他にも住民の皆様にお助け隊を知って頂くために、ご希望の場所に出向き、説明に伺うことで、理解を深めて頂きたい。

今後、困っている方の声をどのようにつかんでいくのか、直接聞くことも難しい。例えば、最前線で高齢の方対象の活動されている自治会・民生委員・ケアマネージャーの方々を経由しながらニーズを集めていくこと、今後の活動を踏まえながらできることを行っていくことが大事と考えている。

10年越しの構想、「お助け隊なみき」の周知には時間がかかると思われるので、地道に末永い活動へとつなげていきたい。ちょっとした困り事は「お助け隊なみき」へと伝えていただけるよう尽力していきたい。

皆様のご協力を宜しくお願いします。

5 閉会の挨拶

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 副会長 宮川知恵子